

上杉文華館 目録  
2023年1月31日（火）～2月26日（日）  
関東管領上杉氏⑪～享徳の乱

資料名	頁数	法量 (cm)	時代	作者	所蔵
複製 上杉本 洛中洛外図屏風 <small>うえすぎほん らくちゅうらくがいずびょうぶ</small>	六曲一双	各160.4×365.2	原本 永禄8年 (1565)	狩野永徳	上杉博物館
国宝 上杉家文書 畠山持国奉書案 (山内上杉家御教書以下引付) <small>はたけやまもちくにほうしょあん やまのうちうえすぎけ みぎよえよい かひきつけ</small>	一通 (一冊)	29.1×23.8	宝徳2年 (1450) 10月11日		上杉博物館 文328
国宝 上杉家文書 後花園天皇口宣案 <small>ごはなそのてんのうくせんあん</small>	一通	31.8×48.6	享徳3年 (1454) 3月29日		上杉博物館 文291
国宝 上杉家文書 上杉房定書状 <small>うえすぎふさきだしじょう</small>	一通	14.2×21.1	(享徳4年・1455) 6月9日		上杉博物館 文194
国宝 上杉家文書 上杉顕定裏封目録 <small>うえすぎあききだうらふうもくろく</small>	一通	32.9×42.0	(明応5年・1496) 7月		上杉博物館 文917

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り広げました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏の息子義詮・基氏、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。

15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第11回目は、「享徳の乱」をテーマとして関連文書を紹介します。享徳の乱とは、鎌倉公方足利成氏による関東管領上杉憲忠謀殺に端を発した武力衝突で、概ね利根川を境に東に成氏、西に上杉氏と関東を二分するような形で対峙し、文明14年（1482）まで続きました。当時の利根川は羽生（埼玉県）あたりから南へ流路を変え、現在の東京湾に注いでいました。その前提には、足利持氏死後の鎌倉公方不在時期における上杉氏主導の関東支配に不満を持つ勢力が存在し、文安4年（1447）3月の成氏の鎌倉公方就任による反上杉氏勢力の盛り返しに伴う、上杉氏勢力との対立の激化がありました。それが爆発したのが憲忠の謀殺であり、享徳の乱でした。

ここに鎌倉府体制は崩壊し、利根川の東西を分割して支配する公方-管領体制が成立し、戦国時代の関東の支配体制となりました。今回は享徳の乱に関係した関東管領山内上杉氏当主である憲忠、房顕、顕定、そして越後との関係などを紹介します。

「国宝上杉本洛中洛外図屏風」は、原本の完成時を想定した1995年制作の複製Aを展示します。